

9月日銀金融政策決定会合、3ヵ月ぶりの利上げで政策金利を1.25%へ！

<結果概要>

- ・日銀は、9月の金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き上げ、1.25%程度とすることを決定した。(賛成7: 反対2)。
- ・今回の利上げに対して、高市政権によって任命された浅田審議委員と佐藤審議委員の2名は反対票を投じた(※)。
- ・今後の金融政策運営については、基調的な物価上昇率が2%に近づくなかで、現在の金融環境は緩和的であるとして、経済・物価・金融情勢に応じて政策金利を引き上げ、金融緩和度合いを調整していく方針が示された。

※浅田審議委員は、足許のコアCPIの上昇率が2%を下回るなか、経済の状況は必ずしも強いと言えないとして、佐藤審議委員は、経済・物価情勢が現時点でこれまでと比べて大きく加速している状態にあるわけではないと考えられるとして、利上げに反対した。

<決定内容>

	今回結果	市場予想	前回結果
政策金利(%)	1.25	1.25	1.00

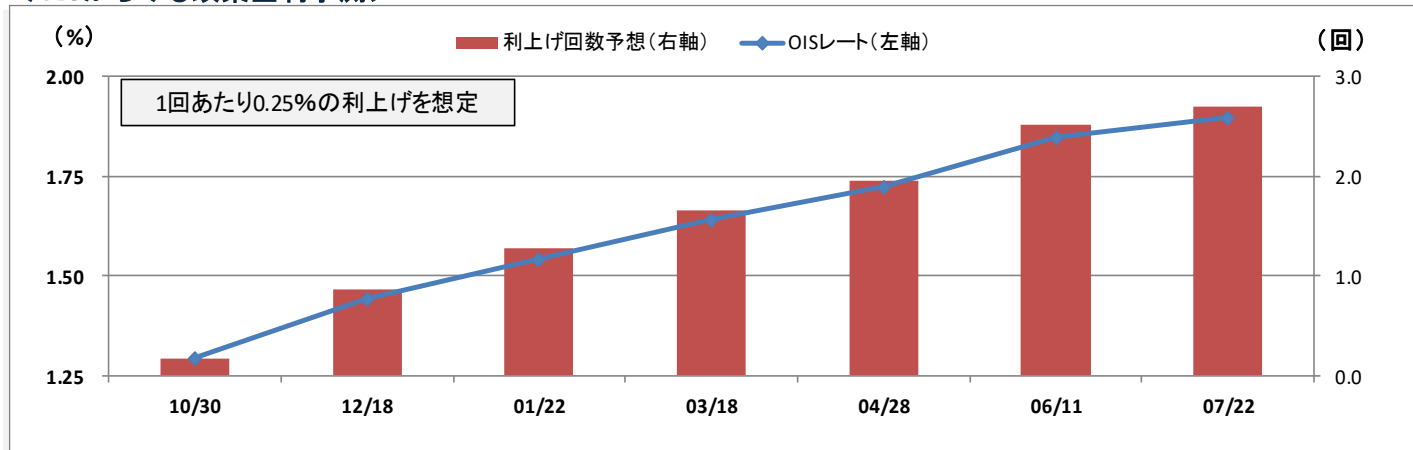
<日銀総裁会見要旨>

- ・植田総裁は、従来は2%を下回る基調的な物価上昇率を引き上げることが短期的な政策の狙いであったが、足許では2%に近づくなかで、上振れリスクを抑え、2%程度で安定させることが重要との認識を示した。そうした意味で「政策の局面が変化した」と述べた。
- ・1回あたり0.50%の大幅利上げや連続利上げの可能性に関しては、物価情勢次第であり、その可能性はあらかじめ排除しないとした。一方で、そのような対応が必要となるのは、物価が目標を超えて大きく上回るリスクが高い、あるいは既に目標を大きく超えるような状況だと説明し、それを避けるために前もって様々な調整を行っていくとの考えを示した。
- ・また、現在の金融環境については、まだ緩和的だが、緩和度合いは徐々に縮小しているとした。そのうえで、急激な利上げによる銀行貸出や資産価格などの大幅な調整を避ける必要性に言及し、利上げに伴う金融・経済への影響を慎重に見極める姿勢を示した。

<今回のポイント>

- ・今回の会合では、浅田審議委員、佐藤審議委員の2名から利上げへの反対票が投じられたほか、大幅な利上げや連続利上げには慎重な姿勢が示されるなど、市場の想定ほど日銀がタカ派的ではないとの見方が強まった。
- ・もっとも、今回の利上げ後も金融環境は緩和的であるとの見方から、利上げ継続の姿勢が維持された。また、これまでは基調的な物価上昇率が2%を下回るなかで物価の下振れリスクを厚くみて、緩やかな利上げを行ってきたが、今後は上下双方方向のリスクを対照的にみつ
- ・OISによる市場の利上げ織り込みでは、来年7月までに約2.7回(1回あたり0.25%換算)と、概ね3~4ヵ月に1度のペースでの利上げが予想されている。

<OISからみる政策金利予測>



<相場動向>

	9月18日 終値	9月17日 終値	前日比
日経平均株価	65,018.95	64,136.15	882.80
国内2年国債利回り(%)	1.840	1.860	▲ 0.020
国内10年国債利回り(%)	2.985	2.990	▲ 0.005
ドル/円相場	156.88	155.97	0.91

OIS(オーバーナイト・インデックス・スワップ)とは
・一定期間にわたって「無担保コール翌日物金利」と「固定金利(OISレート)」を交換する金利スワップ取引の一種。
・OISレートには、先行きの政策金利(≒無担保コール翌日物金利)に関する市場の予想が反映されるため、政策金利の動向を見通すうえで注目度が高い。

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。